

館・園  
紹介  
No 27

## 白川郷合掌村



〒501-56 大野郡白川村鳩谷 TEL 鳩谷(057696)1(代)

## 人間の知恵と歴史を秘めた安らぎの里

地域開発が観光開発が、やゝもするとその土地の地域住民の経済生活を無視して、外部資本の側だけから推進されがちな現状の中で、村民の生活をこそ核として、自分たちの手で「新しい健全な村づくり」を進めている白川村が、消え行く「加須良」「大窪」「馬狩」「島」の四集落から、代表的な合掌造りを集めて移築復元したものである。トタンぶきの家屋が目立ち、生活洋式の近代化とともに改造されていく従来からの荻町合掌集落の対岸、三方岩獄や野谷荘司岳を背景とした静かな自然環境の中に、永久に保存することを目的とした合掌村である。

村へは、荻町からぜひ徒歩で入りたい。吊橋を渡り庄川の清流の音を耳に、岩の洞窟をくぐり抜けやがて訪れる合掌村……入口管理事務所自身が貴重な文化財で、大家藤重家の財産を守るために天明8年に造られた板倉を移築したもの、当時の豪勢さが偲べれます。

中野長治郎家は、お休み所としていろいろの端でくつろぐことができ、また主に屋外作業農機具類が展示されている。他に代表的な合掌家屋として、中野義盛家、山下陽明家、これに稲架(はさ)小屋、唐白小屋、あるいは稲田、桑畑、雑穀畑などが、白川の人々の生活の知恵と、はるかなる伝統・歴史を語りつつ、ひとつの屋外村落博物館として生きている。

豊かなブナの原始林が、新緑に芽吹き風に揺れ、山々が残雪に白く輝く春の合掌村、山々が紅く燃えるように色づく秋の合掌村、歴史と民俗だけでなく、ヒトと自然とのかかわりをみつめ直す場所でもある。冬期休村。(小野木)

## 昆虫いけどり作戦〔名和秀雄 著〕

日本モンキーセンター学芸員 広 瀬 鎮

子供たちにとっても大人たちにとってもこの本は愉快的な本である。子供たちにとって昆虫の神様のような存在である著者が、世に送り出してくれたこの書物は、著者自身も驚ろくほど子供たちに喜ばれている。自然教育を早くからとりあげて実践してきた著者の物の考え方を知らるうえでも大いに役立つ。

著者は、この本を読んで、「おもしろい」といふ親は、「良い親」、「何だこんなもの」といふ親は「だめな親」と、子供たちにこの本を紹介しながら語っていた。「いけどり作戦」といふ題名も、実は昆虫をつかまえるためのいわば技術書であることを示しているが、ムシ退治・捕殺奨励の本ではない。昔ならば、それこそ誰にも教えてやれないとっておきの秘密のような知識が、公開されているのである。幸い、近時著者とも話えたのであるが、子供の頃の楽しい体験は、その当時の多くの子供たちの共有のものであり、それを皆に語りかけたものが、この書なのであるが、読者もさまざまであり、自然保護の立場からの反論もあらわれるに違いない。要は、この書物を通じていかに正しく子供や大人たちを自然とかかわりあって育て、指導するかというところが問題なのである。著者の心の根底にひそむものは、「虫もすめぬ地球になったらおしまいだ」という自然保護への積極的な気持なのであり、そして昆虫のいけだりも、子供たちの自然遊びのきっかけとなればよいというのが、真のねらいなのである。

昆虫いけだりの手引き書としてこの本が、果して子供たちに役立つかというところを自然物である虫どもは、そうやすやすとこの本を読んだぐらいではなかなかつかまらぬ。おいそれとこの本を読んだぐらいでは虫は生けだりできない。たとえば、セロテープによるいけだり

法なども、実際に試みてみればわかるのであるが、うまくひっついてくれる虫などごく少ない。虫とりと一口でいっても、相手を知らなければ一匹もとることができないのである。

この書物をおかすの悪童、ガキ大将どもの大人の郷愁、楽しみのみを追うを話題としてはならないし、自然をよくみつめ、熱心に観察することからはじめて虫のいけだりも可能となるのであり、自然のしくみも、自然への接し方なども謙虚な反省が要求されているのではなからうか。遊びの次にくるもの、将来の大人にとって、昆虫が果してどのように人間とかかわりあっているのか、この点をはっきりさせておいて欲しかったし、欲を云うならば、貴重な人生体験からの多くのアドバイスがもっともっと欲しい。

一方、昆虫いけだりの方法は、いかなる環境においても試みられるというわけにもいなくなってきた。虫一匹いないアスファルトジャングルにすむ都会の子供たちは、今後もカブトムシやカミキリムシを百貨店で買いつづけるであろう。したがって、虫のいる豊かな自然を保存し、人間にとって好ましい自然を回復させ、虫と共に楽しみたいという子供を一人でも多く育てることは、我々の重要な仕事でもあろう。

望ましくは、著者の運営している昆虫博物館と、その利用の仕方についても大いに論じて頂きたかったと思う。なぜならば、著者は、情熱をもって自然教育という労多く、益少ない子供たちへの働きかけを今日も試みているからである。たえまない実践から生みだされた書物だけにいつまでも人々の心をひきつけるにちがいない。

発行所、ごま書房 定価580円

# 「学芸技術員」講習会に関心絶大

総会の席上で決定された岐博協認定「学芸技術員」資格付与規程による第1回講習会が、今月27日(土)28日(日)の両日、内藤記念くすり資料館(レクチャールーム)で開催されます。県下の博物館界の資質向上を期しての、全国的にもまれな事業であるだけに、各界から注目されておりましたが、8月末までに、すでに350名を越える受講者の申し込みがあり、予想外の反響を呼んでおり、その県下での関心は絶大なものであるだけに、目下講習会実行委員会は、準備に万全を期して奮闘中です。

開講内容と講師は次のようです。

9月27日(土)

- ※博物館学 広瀬 鎮  
(日本モンキーセンター学芸部長)
- ※文化財保護法改正解説 吉田 豊  
(岐阜県教育委員会文化課長)
- ※博物館社会教育論 金子 功  
(御園科学センター館長)
- ※仏教美術概論 石田 豪 澄  
(富貴美術館長、厳屋寺住職)
- ※自然史教育論 名和 秀雄  
(名和昆虫博物館長)
- ※飛驒の里開設を巡って 長倉 三郎  
(飛驒の里名誉村長)
- ※ミニ博物館経営を巡って 土田吉左エ門  
(丹生川集古館長)

9月28日(日)

- ※自然史教育論 小野木 三郎  
(「岐阜の博物館」編集長)
- ※くすり資料館展示論 青木 允夫  
(医博、くすり資料館長)
- ※民俗学概論 清水 春一  
(大垣市 社会教育課長)
- ※考古学概論 大江 令  
(日本考古学会々員)
- ※美濃古窯論 古川 庄作

(岐阜県陶磁器陳列館長)

- ※甲冑展示論 吉田 幸平  
(文博、中部女子短大教授)
- ※博物館運営論 郷 浩  
(岐阜城館長)

九二日間、ピッシリの講習会ですが、岐博協が全力投球で進めております。これを機会に、ひとりでも多くの方々が、博物館学に理解を深められ、いっそう進んで「郷土の人文・自然文化財について」あるいは巾広い生涯教育—自己教育に情熱を傾けられるなら、これこそ地方文化を下から盛り上げ支える、まさに本物の文化教育界の誕生となるわけです。それだけに意義高い尊い協会事業だと自負しております。

(岐阜県博物館協会、役員一同)

~~~~~  
愛博協研究会にも参加ください。  
~~~~~

愛博協では、全日本博物館学会との共催で、研究発表・討論・研修を目的に研究会を開催されます。

○テーマ、地域社会と博物館

○日時、9月20日(土)13:00→21日(日)

12:00まで

○場所、御園ゼミナハウス

愛知県北設楽郡東栄町

TEL 05367-6-1491

○費用、20日夕食から21日昼食まで宿泊料つき1,800円

○申込み、9月10日までに葉書で

御園天文科学センターへ

(住所、ゼミナハウスに同じ)

◎話題提供者は、金子 功氏(御園天文科学センター館長)が予定されていますが、その他申込者歓迎ですので、各地の地域社会にあって、抱えていられる悩みなどを持参され、研修されんことをお勧めします。

(岐博協事務局)

# 「学芸技術員講習会」に想う

岐阜県博物館協会副会長、岐阜城館長 郷 浩

受講申込者が300名を越えたことは、驚異的な事実でありまた感激に耐えない。文化財保護行政が見直しされ、議員立法で「埋蔵文化財を守る」動きがあり、内容的にも、点から面へ、あるいは民族芸能・無形文化財の重視など、国家的にも日本文化の伝統を守る気運の高まりの中で、いよいよ国民・県民層の中にも「新しい文化財保護への夜明け」が訪れた証拠で、ひしひしと新しい息吹きが感じられる。

従来の博物館は、国や県の大きな段階で云々されがちで、いわば大企業中心的な感があった。現実の岐阜県内には、90余の郷土館施設等があるが、これらはいわば小企業、地方のちっちゃな郷土館には、小っちゃいなりにその進み方があるはずだが、そうした個人的館園のための講習会、図書・文献は皆無に等しいのが現状である。展示にしても資料保管についても、それぞれ多くの悩みをかかえてもいる。まして勉強の機会や場もない。

また県下の寺院にも数々の文化財はあり、寺院の方々の中にも「死蔵させることなく何とか社会に役立てたい」という意欲もひじょうに高いのが現実で、今回の申込者の中にもそうした寺院関係者も50名を越えている。

今回の講習会は、こうした地方地方での地道な文化活動を向上させるためにこそ計画されたもので、これが動機となって、「よし、ひとつ俺も自分の住んでいる村で、地元の文化財を守る戦士になろう」という意欲づけ、あるいは、郷土館の使命観に燃える人が生まれてくることこそが期待される。

今回の催し物については、手きびしい批判も多く、「安易な資格認定ではないか」「せめて一ヶ月間ぐらいの講習会でなくては」などもっともな指摘を受けている。しかし弁解じみてるが、厳密に考える立場もあるが、これはあくま

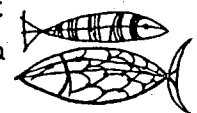
でも、下から盛りあがった主体的な研修会で、これこそ本物の社会教育だと自負できるものではないだろうか。参加してみて、自分の知らなかったことを新しく知り、各地の人々と知り合い友人をつくり、情報交換をし、やがてはOB会が生まれるなどして新しい研究の場が生まれる可能性を秘めているともいえる。資格を得たからどうのこうのというものでもなく、あくまでも自由な自己教育の場である。認定証を得ることが目的ではなくて、それを得るまでの過程の学習にこそ意義があると考えるべきではなからうか。

たくさんの種子は播かれるが、全部が全部発芽するとは、期待することがおかしいのであって、その中から10粒でも20粒でも、少しでも多く発芽し成長してくれることをこそ願うべきではなからうか。底辺を広げることこそ目的として、悪いはずがなからう。このことは、必ずや文化県岐阜県の前進になると信じている。

多くの手きびしい批判の中で、今岐博協は一石を投じた。これが叩き台となって、今後のより充実した方向が生み出されることこそ望ましいのであるから、協会はどんな批判も喜んで受け入れるつもりである。何事も恐れず行動を起こし、結果を素直に反省することから、進歩がはじまる。

これは、日本人全体が、日本文化の伝統を守ろうとする気運の高まりの中で、巾広い底辺の広がりを願って、あくまでも参加者ひとりひとりの精神的な生きがいを見つける機会・場として役立つものだと考えてはいけなないのだろうか。

郷土の自然風土に、民俗・歴史に、正しい理解と関心を持つ人づくり、この地味な仕事は、批判を受け入れつつ、質的に進化させながら続けてゆかねばならぬ尊い事業である。



## 統計表にみる博物館職員

### 社会教育面での「博物館」の見直しを

先に岐阜県教育委員会社会教育課より、昭和49年のまとめとして、「絵図・統計表で見る岐阜県の社会教育」(B5.74ページ)が出版されている。図表編(赤・青二色刷り)資料編(7項目に分けてある)からなり、社会教育職員という項目に、博物館が扱われている。

市町村名	博物館(含相当施設)				
	館数	職員			
		館長	主事	事務	管理人
岐阜市	1	兼1	専3	1	—
瑞浪市	1	専1	—	4	—
高山市	3	専1	—	2	—
計	5	専2 兼1	専3	7	—

ここに公表されている数字をみると、岐阜県下の博物館関係職員は、総勢13名で、これはまさに涙の出るような現状である。ちなみに、他の社会教育関係の職員をみると、公民館は総勢660名、公民館類似施設が508名、合わせて1,168名。図書館関係が55名という現状である。これらと比較してみると、いかに県下の文化教育行政、ことに、これからの文明社会で重要視されるべき「博物館」関係が見おとし、忘れられているかがわかる。

ここに公表されたのは、法的裏付けのある博物館だけであるとはいえ、岐阜県下の社会教育を全体構想の中で考える場合、逆にみれば、それだけ法的博物館が充実していないことを物語っており、「教育県」を自負する本県の、洗い直されるべき恥部ではないだろうか。

### 「岐阜県博物館要覧」改訂作業進行中

#### 未提出アンケートは早急に返送を

昭和43年に出版されました「岐阜県博物館要覧」は、県内での唯一の手引書・案内書として好評を得てきました。しかし、これは150部の限定出版で現在は入手不可能、しかも、すでに7年の年月が過ぎ、その後に開館されたものが収録されておられません。

当協会では、これを全面的に改訂し、現在の県下の文化教化施設等を一覧できる「要覧」の出版を計画し、現在編集作業を進めております。

知的レジャーが目目される今日、観光に、生涯学習に、あるいは余暇の生きがいに、公立、私立、規模の大小にかかわらず、博物館的施設要覧のまとめは急務であります。

つきましては、少しでも完璧な「要覧」として出版したいと思いますので、ここに再度ご協力

をお願い致します。まだアンケート用紙、ご返送でないところは、至急返送下さいますようお願い致します。出版は8月予定、広く県内外に配布し、大方の利用の便に役立てるものです。

#### 文献紹介

民衆社から、社会教育の実践と理論・実務を展望した講座と、戦後社会教育のあゆみが出版されました。

現代社会教育実践講座 全4巻 各巻 2,500円  
戦後社会教育実践史 全3巻 各巻 2,500円  
いずれも、戦後社会教育の実践の蓄積のなかから、今後の方向を具体的に展望する教科書ともいえる出版物。博物館・郷土館等の教育活動の理論背景として一読を勧めたい。

### くすり資料館に新展示

内藤記念くすり資料館(羽島郡川島町エーザイ工園内)では、一階ロビーに、「むかしは、このような道具で、このようにして薬を作りました……」ということが一目でわかる「家伝薬工場」を復元展示されました。お出かけ下さい。



### 付知峡に博物館計画

「裏木曾の自然環境を守る会」が中心となり、「木一本首一つ」ときびしく守られてきた旧神宮備林をとりあげ、自然博物館の構想を打ち上げた。現在、宿泊施設や資料室付きの森林博物館・動植物の計画が進められている。協会会員からの協力が望まれます。

### 「岐阜県博物館開設 準備概要」できる

B5版、6ページの三ツ折リーフレット型に、建設の趣旨、展示の概要、主要室名と面積、主要教育施設、建築概要、展示準備概要がうまくまとめられ、来年5月開館を前にした岐阜県博物館の様子が、ひと目でわかるようになっている。地方自治体財政が厳しい状態下とはいえ、こうした未来に生きて働かねばならぬ文化教育行政には、十分な予算措置がとられ、人文・自

然展示とも、後世に悔いを残さない完璧さをめざしてほしい。さらに博物館は施設や建物でないことを考えると、開館後の活動内容こそが生命である。そのための永続的な予算措置こそが望まれる。

### 金生山化石館を閉館させるな

本県内の自然系の館園として、また古生物学の大切な資料を保存展示している郷土の自然史として貴重な存在の「金生山化石館」が、これまでは、赤坂町産業館に併設され、赤坂町商工会の手で管理されてきた。ところが、同商工会が「赤坂総合センター」へ移転し、管理者不在で閉館されようとしている。世界に名の知れた化石の産地赤坂金生山、そこから産出した三葉虫、海ユリその他の化石は、ふるさとの大地の歴史を物語る「かけがえのない自然の文化財」であるだけに、大垣市自身が、積極的に保存・管理し、しかも一般に公開して当然ではないだろうか。大垣市当局の、博物館行政への開眼が望まれる。

### 編集後記

◎本年度も、文部省による「学芸員の資格認定試験」が、11月20～21日、東京国立教育会館で開催されます。10月10日受験願書締切です。多数参加を。詳細は各教育委員会社会教育課へ問い合わせられたい。

◎岐阜で産声をあげた「学芸技術員」講習会、郷先生の主張されているように、これからの方向づけにこそ意義があります。

これを起爆剤として、巾広い力強い「ほんものの学習人」文化人の誕生することが望まれます。

◎博物館人登場、今回は休みました。ここにこの人が、この人の登場を、と協会からの希望・声をお待ちしています。編集子および事務局までどんでんお寄せ下さい。